

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「コンビニを外国人実習生の職種に」
- 2) 「直売所で海の幸・山の幸 長野と福岡、ビデオ通話で購入」
- 3) 「グランフロント大阪に“巨大ガチャ”物々交換リサイクル企画」
- 4) 「1箱1万円する超高級“十二単ティッシュ”月に50箱売れる」
- 5) 「ストレス発散“涙活”できる女性の為のホテルプラン」

1) 「コンビニを外国人実習生の職種に」

コンビニエンスストア業界の海外展開を後押ししようと、経済産業省は外国人スタッフが日本で働きながら技術を学ぶ「外国人技能実習制度」の対象にコンビニの店舗運営に関する職種を加えるよう関係省庁と協議を進めていくことになった。
経済産業省によると、日本のコンビニ各社はアジアで合わせて1万店余りを運営しているが、各社は今後の海外展開を強化するには売り上げや在庫の管理など、日本の店舗運営を学んだ現地の外国人スタッフが欠かせないとしている。

このため経済産業省は、コンビニ各社と検討を進めた結果、発展途上国の人材育成を主な目的としている「外国人技能実習制度」の対象にコンビニの「店舗運営管理」という職種を新たに加えるよう、厚生労働省や法務省と協議を進めていくことになった。

経済産業省は、実習生としての受け入れはコンビニ各社の海外展開を後押しするだけでなく、発展途上国の流通業の発展にも貢献できるとしている。
ただ「外国人技能実習制度」を国内のコンビニの人手不足を補う目的に利用するのではないかという批判も予想されることから、経済産業省は、実習生が日本で学んだことを帰国後に実務にいかしているか、検証する方法などをコンビニ各社と検討することにしている。

国をまたいでも店舗基準を統一化するという事は、グローバル化するコンビニにおいて必要不可欠であるし、制度化されれば働き手も雇用側も目的を持って取り組めるので良いと思う。ただ、懸念されているような人手不足の解消に利用されたり、先日発表された「コンビニエンスストア宣言」にある防災・防犯の役割を果たすなどコンビニに求められる役割が年々増える中で、外国人スタッフにどのようにその任務を任せるかなど課題も多いだろう。

2) 「直売所で海の幸・山の幸 長野と福岡、ビデオ通話で購入」

道の駅「今井恵みの里」（長野県松本市）とあんずの里市利用組合（福岡県福津市）は23日から双方の農産物直売所の商品をそれぞれの顧客が購入できるようにした。顧客は直売所に設置されたタブレットを使い、ビデオ通話で店員の説明を聞きながら商品を注文する。海の幸と山の幸を両方購入できる仕組みで来客増を目指す。

毎週月・木曜日に今井恵みの里で、あんずの里市の商品を購入でき、火・金曜日にはあんずの里市で今井恵みの里の商品を買える。代金と送料は顧客がいる店舗で支払う。顧客は自宅で商品を受け取る。

あんずの里市では農作物に加え、玄界灘でとれた鮮魚を販売している。今後は今井恵みの里で鮮魚を購入できるようになる。今井恵みの里はリンゴや長芋など信州の特産品の販売を見込む。

今井恵みの里の犬飼公紀取締役駅長は、「福津市のお客さんに松本の農作物を知ってもらいたい機会」と意気込む。

これまでもPCやタブレットを利用して店頭で漁港とダイレクトにやりとりを行う例などはあったが、双方の直売所でやりとりするのは珍しい。両地域の連携感も生まれると思うし、産地を知ることによって従来の買い物とは違う楽しみも味わえるだろう。このような取り組みが各地に広がれば、新たな需要にもつながり漁業や農業にもまた違った未来が見えてくるのではないかと思う。

3) 「グランフロント大阪に“巨大ガチャ”物々交換リサイクル企画」

グランフロント大阪のうめきた広場に3月26日、「巨大ガチャガチャ」が登場し、訪れた人々を楽しませている。

ナレッジキャピタルでは、開業後初となるグランフロント大阪全体を会場としたお祭り「ナレッジキャピタルフェスティバル」を開催中。巨大ガチャガチャは、同フェス「OMOSIROI 体験ストリート」ブースの企画の一環。

巨大ガチャの筐体は高さ3メートル、中には直径30センチの透明プラスチックカプセルがぎっしり詰まっている。子どもの腕で一抱えほどもあるカプセルの中には、一般来場者が持ち寄った不用品が入っている。参加者はまず参加費の代わりに自分の不用品を提供し、ガチャガチャを回して出てきたカプセルの中身を手に入れる仕組み。物々交換によるリサイクルが楽しみながらできるアイデアとなっている。

カプセルの中身は、フィギュアやぬいぐるみをはじめ、絵本、バッグ、デジタル音楽プレーヤー、タブレット端末、液晶テレビ、空気清浄機、エレクトリックベース、アンプ、キーボードなどさまざま。何が出るかは開けてみるまでわからないため、学生服姿の男子学生に「ヒョウ柄のポンプス」が当たるというハプニングも。巨大なカプセルが転がり出るエンターテインメント性が子どもだけでなく若い男女にも受け、ブースは初日から大きなにぎわいを見せていた。

フリーマーケットなどの要らなくなった人が別の人へと言うリサイクルの流れはよくあるが、どんなものが自分の元に来るかわからないガチャガチャ特有のワクワク感もあって楽しみながら出来る良いやり方だと思う。本当に必要ないものを引いてしまわないようにジャンル分けをするともっと実用性のあるものになりそうだった。

4) 「1箱1万円する超高級“十二単ティッシュ”月に50箱売れる」

ここ数年、保湿などの機能面がアップしたティッシュペーパーが注目される中、美しさという新アプローチを加えて話題となっているのが大昭和紙工業の『十二単ティッシュ』（1箱

144組〈288枚〉)だ。2014年3月に発売開始。1万円という超高額にもかかわらず、月に50箱、累計600箱をも販売しているという。その特徴は、鮮やかな12色のティッシュペーパーがキレイに折りたたまれ、箱詰めされていること。

「いにしえの人々が日々のコーディネートで楽しんでいた“かさねの色目”といわれる色合わせの最たるものが“十二単”です。私たちに脈々と受け継がれる色彩感覚に響くものを、現代の身近なもので表現したい、毎日の生活に色を愛でる楽しさや華やかさをお届けしたいと企画しました」と、同社企画デザイン室・富樫圭司さんは語る。

微妙な色合いを引き出すために、細心の注意をはらいながら、1色ごとに染色。箱詰めもすべて手作業で行っている。「製品にかかわる者の汗と涙の結晶のたまものですから、1万円という金額設定に迷いはありませんでした」（前出・富樫さん）“十二単”は桜、緋、蘇芳、橘、菜の花、若緑、苗色、常盤緑、わすれな草、瑠璃、桔梗、藤の12色。引き出すごとに異なる色が現れ、お香のかおりがほのかに漂う。肌触りはきめ細かく、しっとりやわらかで吸水性もあり、実用性も申し分ない。色移りすることもない。日常遣いのものに華やかさを加えることで、贅沢な気分になれる“十二単”。ここぞという日の贈り物としても有効だ。

1箱1万円するティッシュをつくって売ろうということにまず驚いた。最近では「手作り・手作業」のものが注目を集め、少々値段が高くてもなぜか手を出してしまう。1箱1万円まではいなくても、ティッシュのように直接肌に触れ、毎日つかうものは特にそうだと言える。安全安心の品質にこだわる現代に美しさを加えた新しい商品のジャンルだと感じた。

5) 「ストレス発散“涙活”できる女性の為のホテルプラン」

三井不動産ホテルマネジメントは、三井ガーデンホテルズ開業31（みつい）周年を記念して、2014年8月より、女性のトマリゴコチを追及する『ホテ活女子プロジェクト』を始動しており、同プロジェクトから生まれた第7弾の宿泊プランとして2015年3月25日から、女性のための「泣ける部屋」の販売を開始する。

同プランは、「日々頑張る女性たちに、お部屋で思う存分泣いてストレスを発散していただけたら」という同ホテルの想いから企画したもの。「涙を流すことのストレス解消効果」である“涙活（るいかつ）”に注目し、「泣ける映画」12作品が見放題、「泣けるマンガ」厳選4作品が読み放題で、書籍『心に効く涙セラピー』を1室につき1冊プレゼントする上に、ホテルから「今日はたっぷり泣いてください」のメッセージがセットとなっている。宿泊特典として、涙を優しく拭える高級ティッシュ、泣いた後にほっとやすらぎを感じるホットアイマスク、首もとあたためシート等が付いている。

対象ホテルは、三井ガーデンホテル四谷のレディースモデレートシングル（禁煙）タイプの部屋で、料金は1室1名あたり1万円-（素泊まり・税込）となる。

期間は2015年3月25日から2015年8月31まで。

様々なものが〇〇活というネーミングで流行してきたが、現代の女性には素直に泣ける場所も少ないという現状がこの記事より分かる。また同時に癒やしの需要も多様化している。働く女性が増える今、ストレス解消法の提案は様々で新しいスタイルを提案することが成功に

つながるのではないかと感じるニュース。実際の利用者がどういう客層になるのか反応を見て、さらに新たな発見が出てくるかもしれない。女性だけではなく男性向けでキャンペーンを行ってみても面白そう。